

被災地復興にこそ税金を

亀谷 参院鳥取・島根選挙区予定候補

日本共産党の亀谷ゆう子参院鳥取・島根選挙区予定候補は2日、JR松江駅前前で尾村利成県議、舟木健治、たちばなふみ両市議、佐野みどり、ひ



の伸一両市議予定候補、向田聡東部地区委員長、安来市議とともに新春宣伝しました。(写真)

力合わせ勝利の年へ

党中国ブロックが決起集会

日本共産党中国ブロックは7日、参院選勝利を期し、新春オンライン決起集会を開きました。西日本17県を活動地域とする白川よう子予定候補をはじめ比例5議席必勝、選挙区での議席増で政治を前に動かす決意を固めました。

原発ゼロの日本へ 決意新た

白川、大平氏が島根原発を調査

日本共産党の白川よう子参院比例予定候補、大平よしのぶ衆院中国比例予定候補は12月24日、島根原発を現地調査しました。党議員団が同行し、島根原発を見渡せる島根原子力館を訪れ、尾村利成県議が概要を説明しました。(写真)



島根原発2号機は2012年1月に定期検査のため運転を停止して以来、約13年ぶりの再稼働となります。中国電力が港湾法に基づく届け出をしないまま港湾工事を

を停止させよう」と呼びかけました。出雲市では大國陽介県議、後藤由美、吉井安見の両市議がスーパー前で宣伝しました。

保育制度、子育て支援の充実を

福祉保育労組が県へ要望

全国福祉保育労働組合島根支部は12月26日、慢性的な人手不足と過重労働で現場が疲弊している実態をはじめ、外国人の子どもの受け入れやアレルギー食の提供など園児への配慮や保護者支援が多様化しているとして、県に保育制度と子育て支援を充実するよう申し入れました。藤本愛美委員長をはじめ保育士や栄養士、調理師など10人が参加しました。

参加者は「保育士として10年間働いても、今までは入院患者が原発事故時に山陽の3県や四国、関西の病院に転院させられる」などの説明に白川氏は「他の自治体の保育制度、子育て支援の充実を」と述べました。

大平 あけましておめでとうございませう。夏の参院選選挙で日本共産党は、比例4から5への議席増、選挙区3議席(東京、埼玉、京都)の絶対確保と議席増をめざします。昨年発表された比例5候補のうち、中国、四国、九州・沖縄の17県を活動地域にするのが、白川よう子さんです。中国地方のみなさんにとって「初めまして」という方も少なくないかなと思いますので、まず自己紹介から話を始めていただければと思います。

全国実行委員として一緒に頑張りました。スキーや山登りが好きで、鳥取の大山にスキーに行きました。

白川 新年おめでとうございませう。私は徳島県に生まれ、幼少の頃から阿波踊りに親しんで育ちました。徳島健康生活協同組合に就職し、結婚で香川に来て、主に民医連の診療所に勤めました。1998年の参院選で、香川選挙区から立候補するよう要請を受けました。その時、子どもが小さくて、一度はお断りしたんですね。政治の世界なんて、候補者が何をやるのかも全然分からないし。当時、「しんぶん赤旗」に日米ガイドライン改定の記事が大きく出ていました。それを読んで、自分の子どもを一生懸命育てるのは親としての責任だけ、それだけではなくて、自分に何かできることがあるなら、選挙に出て頑張ってみることが戦争への道を止めることにな

大平 白川さんは県議として県民要求実現に奔走し、県議を辞める時には県職員の方から残念がられたという話も聞きました。県議時代のエピソードや思い出があれば聞かせてください。

～新春対談①～ 自己紹介—忘れられないエピソード



白川よう子 (参院比例予定候補)
大平よしのぶ (元衆院議員)

候補として立候補し、21年、24年の衆院選でも四国4県を駆け回ってききました。

大平 四国以外での候補者活動は初めてだと思いましたが、中国地方との縁はあります。

白川 民医連の中国と四国の交流がありましたね。党岡山県委員会書記長の垣内京美さんは香川県まんのう町出身で、民医連の若手職員が集まる行事の

大平 他県から子どもを連れて夫のDVから逃れてきた方とお会いしました。県営住宅に入居され、色々な生活の相談に乗ったりしていたんですが、ある時から家へ上げてくれる時がなくなりました。ある冬の寒い日の朝、「お母さんが息をしない」と子どもから連絡があったんです。駆けつけた時にはもう亡くなっていて、同居していた子ども2人が残された。久しぶりに入ると、足の踏み場もないような状態でもっと踏み込んで介入していれば救えたのだからかという後悔でいっぱい。人としての幸せや、幸せをつくる環境というのには、私たち自身が関わっていかないと、子どもたちだけでどうすることもできないんだと。政治だけでなく、地域のつながりや支えてくれる人の存在だったり、人間としての役割みたいなところも感じて、強い印象が残っています。

大平 他県から子どもを連れて夫のDVから逃れてきた方とお会いしました。県営住宅に入居され、色々な生活の相談に乗ったりしていたんですが、ある時から家へ上げてくれる時がなくなりました。ある冬の寒い日の朝、「お母さんが息をしない」と子どもから連絡があったんです。駆けつけた時にはもう亡くなっていて、同居していた子ども2人が残された。久しぶりに入ると、足の踏み場もないような状態でもっと踏み込んで介入していれば救えたのだからかという後悔でいっぱい。人としての幸せや、幸せをつくる環境というのには、私たち自身が関わっていかないと、子どもたちだけでどうすることもできないんだと。政治だけでなく、地域のつながりや支えてくれる人の存在だったり、人間としての役割みたいなところも感じて、強い印象が残っています。

(続く)